

02 普段のお手入れ

お手入れの目安 1ヵ月ごと 用意するもの ハンディモップ、脚立



1 シャッターの裏側を掃除する。
シャッターを閉め、裏側のホコリをハンディモップ等で掃除します。



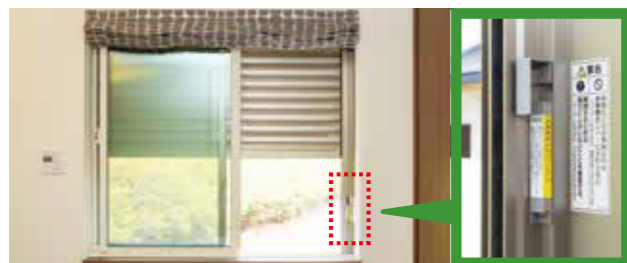
2 スラットの表面を掃除する。
スラットを全開状態にして、スラットの表面のホコリをハンディモップ等で掃除します。

03 停電時に備える(非常手動開放の確認方法)

非常手動開放の確認を行うときは、周囲の方への安全と機器への負担軽減のため下記の方法で行ってください。

非常手動開放の作動確認を年に一度、行ってください。

1 シャッターを半分開ける。



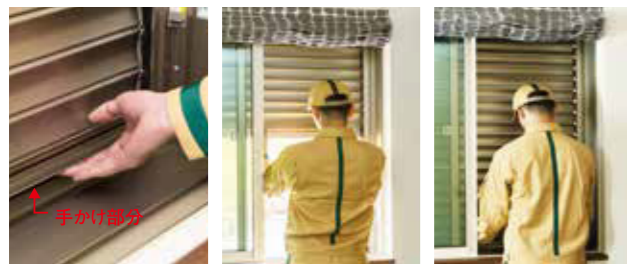
シャッタースイッチ(あける、とまる、しめる)で、シャッターを半分くらい開けた状態にします。

2 非常開放レバーを下に引く。



非常開放レバーに指をかけ、下に引いてください。動作中ランプ(赤色)と防犯ランプ(緑色)が点灯します。

3 手でシャッターを上下させる。



手かけ部分に手をかけ、ゆっくりと下枠まで引き下げてからゆっくりと最初の位置まで引き上げ、手動で上下できることを確認してください。

4 確認後の操作手順



非常開放レバーにより、そのままでは電動で作動しません。作動させるためには、動作中ランプ(赤色)と防犯ランプ(緑色)の点灯を確認。

- ①非常開放レバーを「カチッ」と音がするまで上に引き上げてください。動作中ランプ(赤色)が点滅します。
*動作中ランプ(赤色)が点滅しない場合は、一度非常開放レバーを引き下げ、もう一度①を行います。
- ②シャッタースイッチ・しめるを押してください。*動作中ランプ(赤色)は点滅のままです。
- ③シャッターが全開状態になり、防犯ランプ(緑色)が点灯し、通常の状態に戻ります。

04 「スラット角度の自動制御」で快適・省エネ生活



「日射制御・エアリーガード」はこんなに便利。

- ①防犯通風モード
通風のために、上3枚のスラットを開けることができます。夏の夜に防犯通風モードにしておけば、部屋に熱気がこもることがなく、暑さが軽減できます。
- ②おまかせECOモード
登録されている「地域」「方角」「日時」の情報および季節によっては「室温」に応じてスラット角度を自動で制御できます。夏は日射しをささげるように、冬は日射しを取り入れるように遮光と採光のバランスをとりながら、通風換気ができます。

わが家をいつまでも快適に!

誌上メンテナンス講座

Vol. 33

バックナンバーは Owner's webで!!

≫防犯ブラインドシャッター「日射制御・エアリーガード」のお手入れ方法

便利な防犯ブラインドシャッターだからこそ、定期的なお手入れと強風後の掃除が大切です。

シャッターの表面に付着した汚れを長期間放置しておくとしみや腐食の原因になります。定期的にお手入れすることがいつでも快適にシャッターを使用できるポイントです。特に台風など強い風が吹いた後は細かな砂などがシャッターの隙間に入り込んでいるため、必ず掃除をしてから開けるようにしましょう。



[技術監修] 植月 英貴
トヨタホーム アフターサービス
担当DIYアドバイザー

- 長期間使用しない場合でも、月に一度はシャッターの開閉、スラットの開閉操作を行い、スムーズに作動することを確認してください。
- 「日射制御・エアリーガード」は、防犯性能の高い建物製品におくられるCPマーク(右記マーク)の認定を受けています。
- 「日射制御・エアリーガード」の取扱説明書と併せてご覧ください。



01 「日射制御・エアリーガード」室外側のお手入れ

- 注意**
- 酸性やアルカリ性の洗浄剤を使用しないでください。
 - 金属タワシ、ワイヤーブラシなどは使用しないでください。
 - 潤滑スプレーなどは使用しないでください。

1 シャッターを閉める。



掃除はシャッターを閉めた状態で行ってください。

2 水で洗い流す。



シャッターの表面を水で軽く洗い流します。

3 スポンジで汚れを落とす。



スポンジで表面の汚れをこすり流します。中性洗剤を使用する場合は、ぬるま湯で薄めて使用してください。

4 水気を拭き取る。



乾いた雑巾でシャッターの水気を十分に拭き取ってください。洗剤を使用した場合は表面に洗剤が残らないように十分に拭き取ります。併せてよく絞った雑巾でガイドレール、シャッターケースなどの表面の汚れを拭き取っておきましょう。

お手入れの目安 年4回

お手入れにかかる時間 約20分

用意するもの

バケツ、シャワーホース、ゴム手袋、スポンジ、雑巾、中性洗剤、脚立、ブラシ、シリコンスプレー

注意

- お手入れの前にブレーカーを切ってください。他の方が知らずに操作スイッチを押し作動した場合ケガをする恐れがあります。
- シャッターケースにはしごをかけたり、上にのっかないでください。
- 脚立を使用する場合は、安定した足場を確保し、最上段を挟むように立ってください。(右写真参照)
- ガイドレールやシャッターケースに水をかけないでください。故障の原因になります。
- 台風など強い風が吹いた後は細かな砂などがシャッターの隙間に入り込んでいるため、そのまま開けると故障の原因になります。必ず掃除をしてから開けるようにしましょう。

5 ガイドレールを掃除する。



ガイドレールにたまったホコリや砂をブラシで取り除きます。